

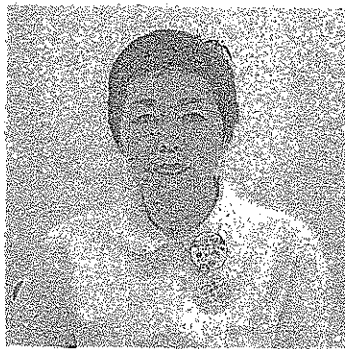
21 五旗

戦争法案廃案へ

平和を守る思いとたたかい

「ふたたび戦場の血で白衣を汚(けが)さない」。日本医療労働組合連合会(日本医労連)は、医療・介護労働者の原点到立ち返り、「戦争法案を必ず廃案に」ととりくみをすすめています。中野千香子委員長に思いを聞きました。(梶田紀子)

日本医労連委員長
中野千香子さんに聞く



定する姿勢に怒っています。国民を二重にも三重にも裏切るような戦争法案は、絶対に許してはなりません。

こともあって、反対の声は広がってはいるものの、多くの医療・介護労働者はまだ戦争法案を身近に感じ切れていない実態があります。医師がおこなっていた医療行為の一部を看護師にゆだねる「特定行為」が秋から始まりま

す。秋闘バツも「戦争NO! いのちが大事」という戦争法案に特化したものになりました。さらに統一ストライキ権確立項

目で、戦争法案と憲法改悪阻止もかけました。それほど強い気持ちでとりくまなければ廃案に追い込めません。加盟組織や医療・福祉関係団体などに呼びかけて、「医療・介護・福祉従事者は『戦争法案』に反対です」という意見広告運動もスタートしました。職場で話題にしていた

白衣を戦争で汚さない

私たちが戦争法案に反対する理由は、いっしょにあります。その一つは、他国の戦争に参加する戦争法案は、国民の命と健康を守るという医療・介護労働者の使命に反するものだからです。

戦後70年、国民の不断の努力で平和を守ってきたのに、他国の戦争に巻き込まれ、殺し、殺される国になるのが戦争法案です。ひとたび戦争が始

まれば、一般の国民が受けられる医療は非常に貧しいものになります。平和でこそ、その人らしく命を輝かせることができるのであって、その手助けをするのが私たちの仕事なのです。

二つ目が、先の大戦でもその前の戦争でも常に有無を言わずに戦場に駆り立てられ、戦争に協力させられてきた苦い経験を繰り返したくないからです。傷ついた兵士を

治療して、ふたたび戦場に送り出すような仕事は二度としない。だから運動の原点は「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」なのです。

民主主義の否定も一つ、私自身がごく腹立たしく思っている

ることがあります。戦争法案を成立させたのがために大幅に会期延長した結果、廃案になるはずだとフラカドを掲げて抗議する人がいました。また、「戦争に行かされるのは国立病院や日赤でしよ」と思っている人もいます。

「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」の横断幕と一緒にパレードする中野さん(左端) 11月1日、東京都内



国会前の抗議行動にはなかなか行けなくても、何かの形で意思表示したいの思いを大切にしたい。集団的自衛権の行使容認を閣議決定し、戦争法案まで提出した安倍政権の悪事を決して忘れず必ず廃案にして、その先の改憲策動を止める力へ発展させる決意です。